

あいち産業振興機構 兼松啓子理事長インタビュー

県内唯一の中小企業支援センターとして 質の高い支援ときめ細かい対応を

愛知県知事指定の県内唯一の中小企業支援センターとして中小企業を総合的にサポートしてきた公益財団法人・あいち産業振興機構(名古屋市南中村区名駅4・ウインクあいち内)は来年創立50周年。現在はコロナ禍で戦後最大の経済の落ち込み(首相所信表明)で中小企業は特にその影響下にあり、同機構の役割が重要視されているが、今年7月、同機構初の女性理事長に就任された兼松啓子さんに話を伺った。

——初の女性理事長に就任されました。

兼松 あいち産業振興機構は中小企業の総合支援を担う重要な機関であり、その理事長に就いたことは嬉しく、光栄に思っています。初の女性理事長と言われますが、私はこれまで県で様々な仕事に就いてきましたが、特に女性を意識してきませんでした。ただ今回各方面にあいさつに伺って、思った以上に女性ということを珍しがられ、全体的に見てこの分野に女性はまだまだ少ないのかなと感じました。これから機構でも女性に光を当てた事業をやっていければと思います。

——愛知県はモノづくり県ともいわれますが、それを支えている中小企業の現状をどう認識されていますか。

兼松 世界でGDP第3位の日本の中で愛知は東京に次ぎ、また工業品出荷額では42年連続日本一です。ナンバーワンの業種は10業種あり半分は自動車産業が占め、多くを中小企業が支えており、すそ野の広い産業クラスターを形成しています。ただ100年に一度と言われる大きな流れ(case=コネクテッド・オートメィテッド・シェアリング・エレクトリックの技術革新。2016年、ダイムラー社長が言い出した)の中で根本的に内燃機関から他分野へと車の構造が変わります。急にそうなるわけではあ

りませんが関連の中小企業は将来を見据えなければなりません。自分の分野を頑張りながら周辺に拡張したり、他企業との連携などいろんな方法があると思います。当機構にはマネージャーを始めとする各分野の専門家が揃っているのでそういう相談を受けることができます。

——貴機構には中小企業相談所「よろず支援拠点」があると聞いていますが、どんな状況ですか。

兼松 同拠点は得意分野を持つコーディネーターが中小企業のあらゆる経営課題・相談に応じ、サポートします。経営改善、資金繰り、販売強化、IT活用から国際化、事業承継そしてデザイン企画、助成金活用など30人(豊橋サテライト含む)の専門家が無料で何度でも相談に応じています。基本は月曜日から金曜日まで午前9時～午後5時までですが、コロナ禍での2月から10月中旬までは土・日曜日も受け付けていました。

相談件数は2～9月で計5792件と去年同期比約40%増でした。内訳を見ると売り上げ拡大が過半数を超え、次いで経営改善・事業再生など。そして創業支援。具体的内容では持続化給付金など国・県の施策活用が3割弱、続いてリモートワークなどのIT活用、資金繰りなど。やはりコロナ禍の影響は甚大です。